

停年退官教官を囲んでの記念撮影

平成10年3月に退官される辻 隆教授（天文学教育研究センター）、岡崎廉治教授（化学専攻）、齋藤太郎教授（化学専攻）、新井良一教授（生物科学専攻）を囲み理

学部新1号館正面玄関において理学系研究科・理学部教授会構成員と恒例の記念撮影を行いました。

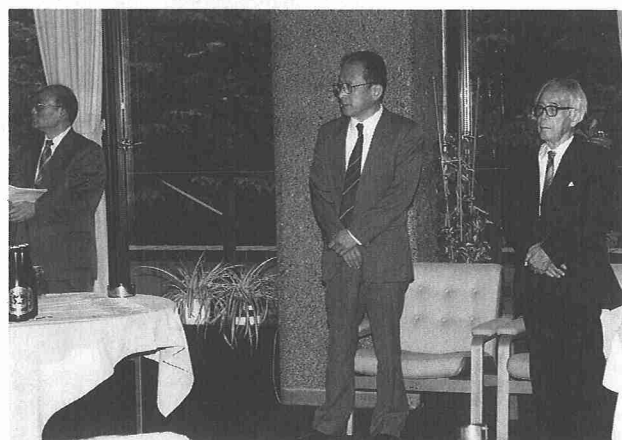
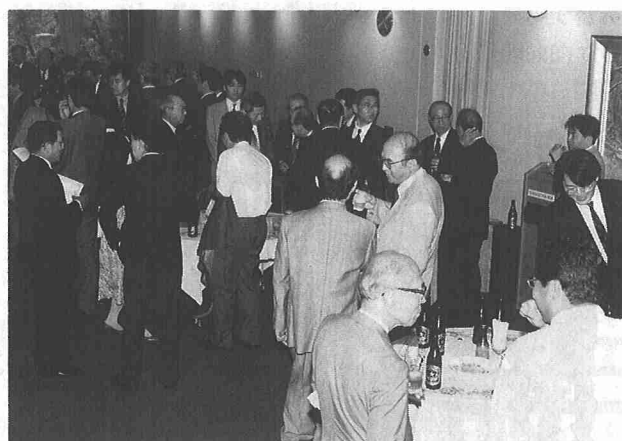


東京大学理学部教授会 1998年3.16 於・理学部新1号館前

理学系研究科・理学部 1 号館西棟竣工式を挙行

建物の分散及び老朽化を解消し、教育研究環境の改善を目指す第一歩として今年の2月に完成した1号館西棟の竣工式典及び竣工祝賀会が4月23日(木)午後4時から同棟ピロティーにおいて行われ、学内外の多数の関係者が出席した。式典は壽榮松理学系研究科長の式辞、蓮實総長の挨拶に続き、元総長有馬理化学研究所理事長から祝辞が述べられた後、上村施設部長の工事概要報告が行われ、引き続き、工事にたずさわった関係者にそれぞれ

感謝状が贈られた。式典に続いた施設見学では、出席者は研究を紹介したパネルの前での教官の説明に聞き入り、また窓からの周辺の景観を楽しまれた。祝賀会は5時過ぎから山上会館で行われ、小間評議員の挨拶、小林副学長の発声による乾杯で祝宴が始まり、遠藤大臣官房審議官、早野文教施設部計画課長、藤田日本学士院長、青柳副学長から祝辞が述べられ、和やかな歓談の後、黒岩評議員の謝辞で締めくくられ、午後7時前終了した。

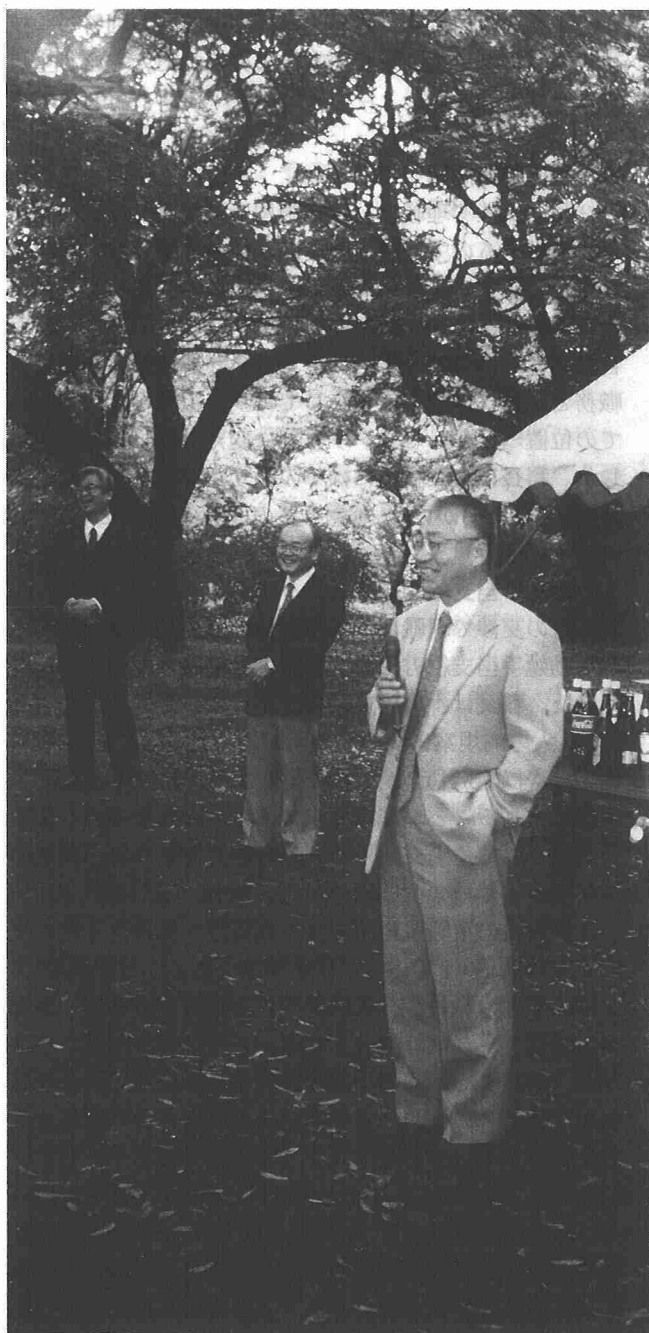


植物園で学生・教職員の交歓会が開かれる

初夏の恒例行事となっている学生と教職員の交歓会が5月11日(月)小石川の附属植物園において開催された。当日は、あいにくの小雨模様ではあったが、園内にはおよそ500人程の学生・教職員が集まった。

寿榮松研究科長、長田植物園長の挨拶のあと、黒岩評議員の発声で交歓会が開始された。教官・学生はもとよ

り名誉教授も多数出席され、各々飲み物などを手に語り合い、芝生にはくつろいだ懇親の輪がいくつも広がり、この時ばかりは日頃の忙しさを忘れて新緑を満喫して、傘をさしながらではあったが、和気藹々とした楽しい交歓の一時を過ごした。



理学系研究科長（理学部長）と理学部職員組合との交渉

1998年2月23日、3月23日、4月20日および5月25日に壽榮松研究科長、小林事務長と理学部職員組合（理職）との間で定例研究科長交渉が行なわれた。主な内容は以下の通りである。

1. 昇級・昇格

事務職員

この間の交渉で理職は、前事務長からの引継事項でもある定年2年前の事務主任の4月1日付6級昇格を継続的に要求してきた。5月の交渉では事前に改めて要望書を提出し、4月1日付実現を確実にするよう強く訴えた。

2月の交渉では、掛員の掛主任への推薦、4級事務室主任の専門職への振替を要求し、組織化の状況も尋ねた。科長は、組織化とは別に個人の待遇改善は今まで通りに行う、組織化は全学の事務一元化もあり、今のところ見通しは立たないと述べた。4月の交渉で理職は、4月1日付で理学部に専門職員が全くつかなかった件を厳しく指摘した。5月の交渉で事務長は、本部ヒアリングで5掛編成の組織化を要求し、専門職員への振替も含めて話した、と述べた。

図書職員

2月の交渉で理職は、平成10年度昇格推薦について、基準を満たしていれば全員推薦・上申することを確認した。

6級昇格について、理職が従来の理学部の取り組みを聞いたところ、事務長は、4～6級では推薦文は付けずに、基準を満たしていれば年齢順で上申していると回答した。理職は、図書の6級要求は文人給115号のうち、特定の学問分野に精通している専門性があることに該当すること、組織化が未定である以上、現状では掛長以外はヤメ六しかないため、スタッフ制での処遇改善を理学部として考えて欲しいと訴えた。科長および事務長は、学歴＝職の専門性ではないと判断して、様式にない推薦書はつけずに上申した、と答えた。これに対し理職は、ラインで上がっていく人だけが優遇され、上級試験合格者でもラインに乗らなければヤメ六ではあまりに低すぎる処遇であり、文人給115号がある以上、それにのっとって上申すべきだと強く主張した。これに対し科長は、状況はわかった、と述べた。

さらに5月の交渉で理職は、具体的な資料も示し、他職種や国立大学の中でも特に東大の図書職員の待遇の悪さを訴え、高位号俸に留まっている実態を説明した。そして、色々な機会で見聞を訴えて処遇改善の努力をして欲しいと主張した。科長は、図書職員全体のレベルアップのために専門職員要求をしようとするなら組織の改編は必要で、そのためには理学部の分散している図書室が

いかに一体化しているかを訴えるすべを考える必要がある、との見通しを述べた。

技術職員

2月の交渉で理職は、平成10年度昇格推薦について、基準を満たしていれば全員推薦・上申することを確認した。また定年2年前で4級の職員の5級昇格を実現するよう、3月の交渉でも要望した。4月の交渉で理職は、4月1日付発令の技術専門官・技術専門職の人数を聞いた。事務長は専門官で10名、専門職で26名と回答し、技術専門官については新しく6級に昇格した人も含め全員がなったと述べた。

2. 技術職員問題

2月の交渉で理職は、現行の技術職員組織は職の制度と矛盾があるので、技術委員会と技術部からなる専門委員会を発足するよう、1月に引き続いて要請した。科長は、基本的には今の組織名のままで、組織としては残り、官職名については全学的に考える、と答えた。理職は、職務としては並列で仕事をしており、組織も専門職としての位置づけとしてスタッフ制に変えて欲しい、と要望した。科長は、業務的にはその通りだが、全面的な組織変更は考えた方がいい、検討するのは構わない、と答えた。

3. 勤勉手当支給問題

3月の交渉で理職は、3月10日の部局長会議で説明された勤勉手当支給方法の変更内容と実際の運用について聞いた。科長は、人事院勧告だからやらざるを得ないこと、東大の内規案について説明があったこと、を述べた。理職は、「勤務評定は大学になじまず、勤勉手当を期末手当に入れることが基本要求である。これまでの一律支給が崩されて差別支給になるのは合意できない。職員の納得できる基準の明確化と情報公開を。」と主張した。

3月24日の東職と総務部長との協議を受け、4月の交渉で理職は、以下の内容が確認事項であることを伝えた。「ほとんどの職員が『成績優秀』な職員であるが、財源から各期2～3割の配分となる。この2～3割ということは、おおよそ4回に1回の計算となる。部局長及び事務長には、この4回の中で特定の人に偏らない公平な選考を行うことを願います。東職は、『順番・ローテーション』と理解する。」これに対し科長は、運用については微妙な問題であり、あくまで東大の内規が共通事項、勤務評定は公平・公正にやる、と述べた。理職は、職員は業務増量で労働過多であり、異動もあることから評価は難しく、支給方法が明らかにならないと職場では不信感も生まれる、と訴えた。科長は、理学部が東大全体と大きく違うルールでやることは難しく、他部局と同様な方法にならざるを得ないと答えた。

5月の交渉で理職が具体的な支給方法を聞いたところ科長は、教官については教育負担の大きい人につけたい、職員は全学的な方式に従う、と答えた。

4. 事務一元化・組織化

2月の交渉で理職は、事務一元化の現状について尋ねた。科長は、「平成11年度の概算要求として出す予定。1つは合同事務部だが実態が不明。もう1つは特定事務の本部集中化であるが、事務軽減になるかは難しいところ。」と述べた。理職は、「現場にいる職員の削減を目的とするような強引な事務一元化は職場を混乱させる。現場の教職員の意見も汲み上げるべきだ。」と要求した。関連して理職は、理学部教室系事務の組織化の現状について聞いた。科長は、全学的な事務一元化の行方を見極めてからだと回答した。また図書については全学的に合同事務部に入らず別途検討することになっており、具体的な議論は無いと述べた。

3月の交渉で理職は、その後の動きと本部から出された部局ごとの削減数の理論値について尋ねた。事務長は、10の合同事務部を作ること、特定業務の一元化については施設関連を除いた6つの業務をできるところから概算要求する予定、と回答した。これに対して理職は、削減数の決め方は機械的で、一元化が簡素化に結びつくかは疑問であること、施設関連は本部集中化で対応出来るのか、などを指摘した。これに対して科長は、問題は確かにあり、施設関連については部局に残すよう本部にも要望している、と答えた。また教室事務を統廃合するなどの件について科長は、そこまで細かい点は言われておらず、強制的に無くせということではないと述べた。

4月の交渉で理職が、平成11年度の概算要求は特定業務の集中化のみかと聞いたところ科長は、集中化と合同事務部の2つで、できるところから要求していくと回答した。また、理学部でも遺伝子・素粒子・環境安全との合同事務部への作業を始める必要があり、大きな問題がなければその方向でやる、と述べた。理職は、集中化した人員は本部に吸い上げか確認したところ、科長は、形の上ではそうだと答えた。これに対し理職は、書類などの簡素化をもっと進めるべきで、結局は本部集中で現場を軽視している一元化は問題であると批判した。また科長は、教室系事務の組織化については、そこまで手が回っておらず、具体的な計画は無いことも述べた。この件に関して5月の交渉で事務長は、本部人事課とのヒアリングで、従来から理学部が要望している事務と図書の5掛編成での組織化を説明してきた、と述べた。

5. 定員削減

2月の交渉で理職が、今年度（97年度）3名の第9次定員削減はどうするのか尋ねたところ事務長は、これから検討すると回答した。理職は、教室系からはもう定員削減はやめて欲しいと主張した。3月の交渉で事務長は、

今回は中央事務からの削減と決まると述べた。また4月の交渉で事務長は、定員削減3名分の供出先が決まり、新研究科へも中央事務から1名出したと回答した。理職が今後の定員削減への対応を聞いたところ科長は、人事委員会で1年かけてユニット数の変更などを検討し、過員のところから削減せざるを得ない、と答えた。

6. 柏問題

2月の交渉で理職は、新研究科の内容について尋ねた。科長は、平成10年度で教官10名が付き、内3名が純増、平成11年度は振替だろうと回答した。また理学部からは最終的に21名分の教官ポストを新研究科に振り替え、事務官についても定数を出す予定とも述べた。

3月の交渉で進展状況を聞いたところ科長は、平成10年度で1名の事務官を出し、平成11年度はさらに増える見込みであると答えた。また技術職員については議論になっていないとも述べた。

7. 教員任期制

2月の交渉で任期制導入の意向を尋ねたところ、科長は、理学部でも新研究科でも導入の動きや希望は無いと回答した。また、法案成立以前に理学部として流動性の調査を行い、任期制導入の必要は無いと判断しており、希望があれば検討するが一律に導入すると弊害が多いと考える、とも述べた。

8. 書記局引越

2月の交渉で、かねてから要求している理職書記局の引越先について科長は、「建物小委員会で検討中である。旧1号館の2、3階は新研究科で使う予定であり、4階を考えている。」と答えた。また理学部の休養室についても移転先は未定であると答えた。理職は、書記局は今までの2倍の面積にするのが以前からの約束であること、休養室は職員の厚生施設として大切であること、などを主張した。

9. その他

3月の交渉で理職は、新1号館への引越終了により旧1号館と3号館の一部が無人状態であり、安全管理などの徹底を要望した。これに対し事務長は、用度掛に確認し、施設掛に見回りを指示する、と答えた。

4月の交渉で理職は、ここ数年作業着・白衣の支給が無いことを指摘した。これに対し5月の交渉で事務長は、今年度には希望をとると答えた。

5月の交渉で理職は、給与の全額振込が急遽決定されて事務でも混乱している実状を伝え、理学部で行っている第2振込先の扱いも尋ねた。これに対し事務長は、「今後は第2振込先への入金は無くなる。口座は個人で管理するしかない。事務連絡会では周知のための文書を用意する。」と回答した。

人事異動報告

(講師以上)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
化 学	教 授	岡 崎 廉 治	10. 3.31	停 年	
〃	〃	齋 藤 太 郎	〃	〃	
生 科	〃	新 井 良 一	〃	〃	
天文研	〃	辻 隆	〃	〃	
地 惑	〃	小 川 利 紘	〃	辞 職	宇宙開発事業団へ
地 理	〃	大 村 纂	〃	〃	スイス国立工科大教授へ
化 学	助教授	菅 原 正 雄	〃	〃	日本大学教授へ
鉱 物	〃	堀 内 弘 之	10. 4. 1	昇 任	弘前大学教授へ
〃	〃	田賀井 篤 平	〃	〃	総合研究博物館教授へ
物 理	教 授	樽 茶 清 悟	〃	採 用	
生 科	〃	野 中 勝	〃	〃	
天文研	〃	中 田 好 一	〃	昇 任	助教授より
物 理	助教授	福 山 寛	〃	転 任	筑波大学助教授より
地 質	〃	岩 森 光	〃	〃	名古屋大学助教授より
植物園	〃	館 野 正 樹	〃	〃	群馬大学助教授より
生 科	教 授	嶋 昭 紘	10. 4. 9	配置換	新領域創成科学研究科へ
地 質	〃	鳥 海 光 弘	〃	〃	〃
化 学	助教授	佐々木 岳 彦	〃	〃	〃
物 理	教 授	青 木 秀 夫	10. 4.16	昇 任	助教授より
化 学	〃	川 島 隆 幸	10. 5.16	〃	〃

(助 手)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
化 学	助 手	新 井 則 義	10. 3.20	辞 職	
物 理	〃	霜 越 文 夫	10. 3.31	停 年	
化 学	〃	林 雄二郎	〃	辞 職	東京理科大助教授へ
臨 海	〃	稲 葉 一 男	10. 4. 1	昇 任	東北大学助教授へ
情 報	〃	西 田 晃	〃	採 用	
物 理	〃	大 野 圭 司	〃	〃	
〃	〃	民 井 淳	〃	〃	
生 科	〃	赤 染 康 久	〃	〃	
物 理	〃	溝 川 貴 司	〃	研究休職	10.4.1～11.3.31
〃	〃	松 原 隆 彦	〃	〃	〃
生 化	〃	今 井 義 幸	〃	〃	10.4.1～12.3.31
物 理	〃	杉之原 立 史	〃	復 職	
〃	〃	山 田 篤 志	〃	〃	
〃	〃	山 田 章 一	〃	〃	
化 学	〃	櫻 井 英 博	〃	〃	
生 化	〃	渡 邊 嘉 典	〃	〃	

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
物 理	助 手	伊 倉 貞 吉	10. 4. 8	研究休職	10.4.8～11.4.7
〃	〃	小 林 研 介	10. 4.16	採 用	
〃	〃	新 井 宗 仁	〃	〃	
〃	〃	羽田野 直 道	10. 4.28	休職更新	9.4.28～11.2.27
〃	〃	田 島 宏 康	10. 5. 1	配置換	素粒子物理国際研究センターへ
化 学	〃	小 澤 岳 昌	10. 5.16	採 用	

(併 任)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
物 理	教 授	堀 田 凱 樹	10. 3.31	併任期間満了	
植 物 園	助教授	館 野 正 樹	〃	〃	
鉱 物 学 (流動講座)	教 授	田賀井 篤 平	10. 4. 1	併 任	本務：総合研究博物館
〃	〃	安 藤 裕 康	〃	〃	本務：国立天文台
〃	〃	中 井 直 正	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	井 上 允	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	常 田 佐 久	〃	〃	本務： 〃
〃	助教授	柴 田 一 成	〃	〃	本務： 〃
地 惑 (流動講座)	〃	星 野 真 弘	〃	〃	本務：宇宙科学研究所
化 学 (流動講座)	教 授	岩 田 末 廣	〃	〃	本務：岡崎国立共同研究機構
生 科 (流動講座)	〃	大日方 昂	〃	〃	本務：千葉大学
〃	〃	武 田 正 倫	〃	連携併任	本務：国立科学博物館
〃	〃	柏 谷 博 之	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	馬 場 悠 男	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	藤 島 政 博	〃	〃	本務：山口大学
〃	〃	重 井 陸 夫	〃	〃	本務：京都工芸繊維大学
〃	〃	日 詰 雅 博	〃	〃	本務：愛媛大学
〃	〃	山 根 正 氣	〃	〃	本務：鹿児島大学
〃	助教授	松 浦 啓 一	〃	〃	本務：国立科学博物館
〃	〃	樋 口 正 信	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	加 瀬 友 喜	〃	〃	本務： 〃
地 質 (流動講座)	教 授	高 橋 栄 一	〃	併 任	本務：東京工業大学
鉱 物 学 (流動講座)	〃	大 隅 一 政	〃	〃	本務：高エネルギー加速器研究機構
地 理 (流動講座)	〃	海 津 正 倫	〃	〃	本務：名古屋大学
生 科	客員教授	鈴 木 隆 雄	〃	〃	本務：東京都老人総合研究所
生 科	客員助教授	丸 田 恵美子	〃	〃	本務：東邦大学
原 子 核	客員教授	本 林 透	〃	〃	本務：立教大学
〃	客員助教授	中 川 孝 秀	〃	〃	本務：理化学研究所
物 理 (流動講座)	教 授	佐々木 節	10. 5. 1	併 任	本務：大阪大学
〃	助 教 授	橋 本 秀 樹	〃	〃	本務：静岡大学

(職 員)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
植 物 園	事務主任	小 嶋 壯 介	10. 3. 31	定 年	
地 惑	事務室主任	川 村 正 義	〃	〃	
情 報	〃	堀 越 悦 子	〃	辞 職	
臨 海	技 官	鈴 木 英 雄	〃	定 年	
事 務 部	事務長補佐 (総務担当)	伊 達 孝 臣	10. 4. 1	配置換	地震研究所事務長補佐へ
〃	事務長補佐 (経理担当)	小 川 勝 美	〃	〃	経理部契約課課長補佐へ (契約担当)
〃	教務掛長	宇都宮 栄 次	〃	〃	総務部学務課学務掛長へ
〃	司計掛長	柳 澤 知治郎	〃	〃	宇宙線研究所共同利用掛長へ
〃	用度掛長	松 本 光 由	〃	〃	農学部附属演習林北海道演習林総務主任 (管財掛長(併)) へ
物 理	事務主任	佐 沼 繁 治	〃	〃	経理部主計課専門職員へ (企画調整担当)
事 務 部	人事掛主任	和 田 敏 雄	〃	〃	文学部・人文社会学研究科庶務掛主任へ
〃	経 理 掛 学際主任	朝 野 英 彦	〃	〃	教養学部等経理課用度掛主任へ
物 理	事務室主任	山 崎 由 子	〃	〃	教養学部等総務課教室事務掛第四主任へ
事 務 部	事 務 官	川 崎 伸 一	〃	〃	総務部学務課キャンパス第二掛へ
〃	技 官	山 田 勉	〃	転 任	高エネルギー加速器研究機構田無分室事務第 三係へ
化 学	事 務 官	瀬 川 忠 子	〃	配置換	薬学部・薬学系研究科図書掛へ
生 化	〃	藤 本 帝 子	〃	〃	経済学部・経済学研究科資料掛へ
事 務 部 (素粒子)	〃	犬 飼 恵美子	〃	転 任	岡山大学附属図書館情報管理課雑誌係へ
事 務 部	事務長補佐 (総務担当)	宮 田 弘	〃	転 任	東京国立近代美術館フィルムセンター主幹補 佐より
〃	事務長補佐 (経理担当)	羽 田 勇 雄	〃	〃	宇宙科学研究所管理部主計課課長補佐より
植 物 園	事務主任	後 藤 宗 利	〃	配置換	工学部・工学系研究科金属工学科事務主任より
事 務 部	教務掛長	柚 原 亜椰子	〃	〃	教育学部・教育学研究科教務掛長より
〃	司計掛長	成 島 喜 文	〃	転 任	国立天文台管理部会計課司計係長より
〃	用度掛長	細 淵 静 夫	〃	配置換	宇宙線研究所共同利用掛長より
物 理	事務主任	後 藤 秀 逸	〃	転 任	高エネルギー加速器研究機構田無分室事務第 二掛長より
情 報	事務室主任	大日方 京 子	〃	配置換	理学部・理学系研究科給与掛主任より
物 理	〃	武 田 いづみ	〃	〃	法学部・法学政治学研究科研究室総務掛主任より
臨 海	事務室主任	矢 崎 力 太	〃	昇 任	
事 務 部	事 務 官	東海林 晴 美	〃	配置換	医学部附属病院分院人事掛より
〃	〃	小 川 隆 浩	〃	〃	医学部附属病院医事課収入掛より
化 学	〃	阿 部 裕 子	〃	〃	工学部・工学系研究科化学生命工学専攻より
生 化	〃	石 原 直 美	〃	〃	文学部・人文社会系研究科図書第一掛より

博士（理学）学位授与者

平成10年 3 月 9 日付学位授与者（17名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	物 理 学	近 藤 尚 人	動力波モニター用レーザートランスデューサー装備ディスクタイプ共振型アンテナ
〃	〃	石 田 悟	(d, d') 反応による ^{12}C の荷電スカラーสปิน励起の研究
〃	生物化学	金 載 勲	Ras 蛋白質の GDP/GTP 交換因子 mouse Sosl の機能解析
〃	生物科学	嶋 田 幸 久	暗処理によって発現する葉緑体タンパク質 din1 に関する研究
〃	〃	矢 野 明	タバコ培養細胞における過敏細胞死誘導機構の解析
〃	地 理 学	遠 藤 元	タイにおける首都－地方都市関係の地理学的研究 －流通業の展開に注目して－
論文博士	情報科学	鈴 木 大 郎	多変数をもつ条件付き項書換え系に対するナローイングの研究
〃	〃	三 好 博 之	書き換え論理の圏論的側面及び関連する話題
〃	物 理 学	潮 秀 樹	$\text{La}_{2-x}\text{Sr}_x\text{CuO}_4$ の電子構造及び常伝導相の物性
〃	〃	深 沢 泰 司	X線を用いた銀河団高温ガスの重元素進化の研究
〃	〃	細 谷 俊 彦	ショウジョウバエのグリア・ニューロン間の分化決定を制御するスイッチ遺伝子 glial cells missing
〃	〃	望 月 優 子	中性子星グリッチの微視的モデル
〃	地球惑星 物 理 学	浅 川 栄 一	走時線形内捜を用いた波線追跡法の開発とトモグラフィ解析への適用
〃	〃	森 俊 哉	赤外吸収分光法を用いた火山ガス組成の遠隔測定に関する研究
〃	化 学	山 口 祥 一	フェムト秒時間分解紫外・可視吸収分光によるレチナールの研究
〃	地 質 学	高 橋 洋	熱水変質鉱物の定量的解析による細倉鉱山の化石地熱系の復元
〃	地 理 学	廣 松 悟	都市政治と都市の社会・空間構造－新たな都市地域地理学の試み－

平成10年 3 月30日付学位授与者（135名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	情報科学	上 原 敬太郎	分散協調トランザクション記述システム
〃	〃	西 田 晃	加速付反復固有値解法
〃	〃	細 部 博 史	階層制約系の理論的性質と効率的解消法
〃	物 理 学	楊 愛 萍	オリゴチオフェンの定常および時間分解スペクトル
〃	〃	青 井 考	ベータ分光法による軽い中性子超過剰核の構造研究
〃	〃	鄭 茜 氷	置換ポリフェニルアセチレン及び希土類金属錯体のエレクトロルミネセンス
〃	〃	高 原 哲 士	Skyrme Hartree-Fock 法による核変形の系統的研究

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	物 理 学	森 山 茂 栄	強磁場及びX線検出器を用いた太陽アクシオンの直接探索実験
〃	〃	相 澤 秀 昭	表面化学結合とエッチングの第一原理的研究
〃	〃	飯 田 圭	高密度物質における相転移と中性子星の進化
〃	〃	石 田 宗 之	$\sigma(600)$ 粒子の存在と関連する諸問題
〃	〃	板 橋 健 太	$^{208}\text{Pb}(d, ^3\text{He})$ 反応におけるパイ中間子の深い束縛状態の研究
〃	〃	今 村 裕 志	磁場中の量子ドットの理論的研究
〃	〃	瓜 生 誠 司	磁場中のアンチドット格子に関する研究
〃	〃	江 澤 元	X線観測による銀河団内の重元素分布と温度構造の研究
〃	〃	大 野 圭 司	強磁性単電子デバイスにおけるスピン依存現象
〃	〃	沖 本 洋 一	ペロブスカイト型マンガン酸化物の金属-絶縁体転移の分光学的研究
〃	〃	奥 村 肇	中性子散乱による重い電子系化合物 $\text{CeCu}_{6-x}\text{Au}_x$ の反強磁性相関の研究
〃	〃	春 日 俊 介	粒子識別を使ったスーパーカミオカンデでの大気ニュートリノ $\nu\mu/\nu e$ 比の観測
〃	〃	河 野 研 郎	奇数本の足を持つ反強磁性ハイゼンベルグ梯子模型の基底状態
〃	〃	河 村 成 肇	重水素・三重水素の凝縮系におけるミュオン触媒核融合現象に関する研究
〃	〃	北 川 二 郎	Γ_8 基底状態を有する近藤格子系化合物 $\text{Ce}_3\text{Pd}_{20}\text{Ge}_6$ における四重極子効果
〃	〃	北 山 哲	銀河団の数密度分布の宇宙論的意義
〃	〃	久 保 晴 信	ビラソロ代数の量子変形
〃	〃	黒 木 経 秀	ファジー球面上のマスター場
〃	〃	河 野 昌 仙	強相関極限での電子系の基底状態の性質
〃	〃	小 西 健 久	Ce 金属間化合物の光電子・逆光電子分光
〃	〃	小 林 伸 彦	リカージョン・伝達行列法による走査トンネル顕微鏡の理論
〃	〃	小 林 広 幸	$2+1$ 次元 $0(3)$ 非線形シグマ模型の位相的側面
〃	〃	清 水 太 郎	衝撃波と渦輪の相互作用における波の散乱現象の研究
〃	〃	田 口 宗 孝	3d 遷移金属化合物のK殻励起による共鳴X線発光スペクトルの理論
〃	〃	館 山 佳 尚	圧力一定の第一原理分子動力学法を用いた BCN ヘテロダイアモンドの物質設計
〃	〃	田 村 隆 幸	「あすか」衛星による銀河団中心領域での重心ポテンシャル分布の測定
〃	〃	塚 野 匡 良	交替磁場中での量子スピン鎖の相転移
〃	〃	土 田 英 二	有限要素法に基づく大規模電子状態計算法
〃	〃	坪 井 禅 吾	可解格子模型における解析的ベータ仮説と函数関係式
〃	〃	鳥 居 寛 之	反陽子ヘリウム原子のレーザー分光（衝突による共鳴線のシフト幅の広がり）
〃	〃	永 井 康 介	陽電子消滅 2 光子角相関法による絶縁性結晶中のポジトロニウムの研究
〃	〃	長 滝 重 博	重力崩壊型超新星における軸対称爆発の効果
〃	〃	南 晴 宏 之	InAs における光励起非平衡キャリアの超高速ダイナミクス
〃	〃	三 宅 隆	結晶シリコン中ミュオニウムの量子状態の第一原理的研究
〃	〃	求 幸 年	強相関多成分系における絶縁体-量子流体相転移の数値的研究
〃	〃	矢 島 章 雄	水素終端 Si (100) 表面上の原子細線の理論的研究

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	物 理 学	横 井 武一郎	$K^+ \rightarrow \pi^0 \mu^+ \nu \mu$ 崩壊における時間反転対称性を破るミューオン偏極の探索
〃	天 文 学	伊 藤 洋 一	近赤外線によるおうし座分子雲に付随した低光度 YSO の観測
〃	〃	河 野 孝太郎	近傍にあるスターバーストおよびセイファート銀河の中心領域における分子ガス
〃	〃	臼 田 功美子	銀河系内の低密度分子ガス
〃	〃	佐 野 孝 好	原始惑星系円盤における磁気回転不安定
〃	〃	清 水 壮 一	矮新星光度曲線の数値実験
〃	〃	徂 徠 和 夫	NGC253 における分子ガスの分布・力学と星形成
〃	〃	高 見 道 弘	近赤外ファブリペロイメージャ“MUSE”の開発および大質量星近傍の星間物質における $H_2[Fe II]He I$ 輝線イメージング
〃	〃	釣 部 通	回転原始銀河雲の収縮に伴う分裂、角運動量輸送と中心核形成
〃	〃	林 啓 志	惑星間空間磁場と太陽風プラズマのダイナミクスの研究
〃	〃	宮 田 隆 志	地上観測用中間赤外分光撮像装置の開発およびミラ型変光星まわりの星周塵の放射形状および変光の研究
〃	地球惑星物理学	西 村 照 幸	全球土壌水分の変動と土壌水分が気候システムに与える影響についての研究
〃	〃	相 川 祐 理	質量降着を伴う原始惑星系円盤における分子組成進化
〃	〃	市 原 美 恵	気泡を含むマグマの力学～マグマのダイナミクスへの応用
〃	〃	今 村 剛	金星大気における物質循環
〃	〃	亀 伸 樹	地震停止機構の理論的研究ー複雑な形状の断層破壊の新しい計算法を用いてー
〃	〃	亀 山 真 典	プレートテクトニクスの発現条件ーマントル対流・シアゾーン形成からの制約ー
〃	〃	川 島 高 弘	超高層大気における観測ロケット搭載型電子ビーム誘起蛍光法による窒素分子振動回転温度及び数密度の測定
〃	〃	熊 谷 一 郎	マントルブルームの取り込み・混合に関する実験的研究
〃	〃	菅 野 延 枝	惑星間空間衝撃波による電子加速機構
〃	〃	日 暮 明 子	衛星リモートセンシングによるエアロゾル特性の全球解析
〃	〃	深 畑 幸 俊	プレートの沈み込みに伴うリソスフェアーアセノスフェアの内部変形運動と島弧の熱的構造
〃	〃	柳 澤 孝 寿	高プラントル数における熱対流の乱流状態の研究とそのマントルダイナミクスへの応用
〃	〃	山 岸 保 子	氷衛星の構造進化と地表再生
〃	〃	エルフィキ ガマル サーベル アーメド	新しい手法を用いた東北地方の地殻変動の時間変化とプレート間カップリングに関する研究
〃	〃	イー ジョン ジョセフ	ベンガル湾における海底電磁誘導に関する研究
〃	化 学	雨 宮 成	レセプター分子による液液界面電位の制御に基づくイオンセンシング
〃	〃	飯 倉 仁	ペンタハプトフラーレン金属錯体の合成、構造と性質
〃	〃	伊 藤 貴 志	化学修飾探針を用いた走査型プローブ顕微鏡に関する基礎研究
〃	〃	井 上 将 行	シガトキシンの合成研究：9 員環エーテルの効率的合成法の開発と F-M 環モデル化合物の合成
〃	〃	今 西 哲 士	金属表面上における吸着分子及び自己組織化配向膜の X 線吸収端スペクトルによる研究
〃	〃	小 澤 岳 昌	カルシウム及びインシュリン情報伝達系に基づく生物活性物質の化学選択性評価法の研究
〃	〃	狩 野 直 和	安定な有機鉛二価化合物プルンピレンに関する研究
〃	〃	岸 川 邦 至	速度論的安定化を利用した低配位有機ゲルマニウム化合物及びその関連化合物の合成と反応
〃	〃	笹 原 亮	Pt/Ph バイメタル表面の構造と $NO+H_2$ 反応に対する触媒活性の研究
〃	〃	竹 廣 直 樹	アトムレベルでみるバイメタル表面の反応特性

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	化 学	野々村 太 郎	マイトトキシンの全立体配置の決定および抗体調製を目的とした鎖状部分の合成研究
〃	〃	濱 松 浩	低速電子線回析による Si(001) 表面上のアルカリ金属吸着構造解析
〃	〃	平 野 愛 弓	グルタミン酸受容イオンチャンネル蛋白質のアゴニスト選択性の新しい評価法
〃	〃	福 田 祐 仁	電子付着および固体表面衝突により誘起されるクラスターに特有な化学反応
〃	〃	松 本 祐 司	原子レベルで制御された金属表面上の表面化学
〃	〃	水 谷 淳	モリブデン硫化物クラスター錯体の合成と構造
〃	〃	森 聖 治	有機銅ーリチウム会合体の反応に関する理論的研究
〃	〃	山 口 良 隆	その場観察X線光電子放出顕微鏡およびリアルタイムイメージングシステムの開発
〃	〃	山 本 浩 史	ドナー系分子性導体における分子配列と電子構造の制御に関する研究
〃	〃	魯 大 凌	溶液中で電極電位により変化する金属及び合金微粒子の晶癖と多重双晶粒子の生成機構に関する研究
〃	生物化学	小 野 尚 孝	ジョウジョウバエの心臓、内臓筋、体側筋及び中枢神経系鞘形成に必須な中胚葉特異的 FGF 受容体遺伝子 heartless の機能と発現調節
〃	〃	森 淳	Col1b-P9 の複製と維持に関する研究
〃	〃	小 田 康 子	ショウジョウバエ Glial Cells Missing の機能とその作用機構の解析
〃	〃	安 形 高 志	動物細胞における KDN 及び KDN 残基の代謝に関与する酵素群の同定と性質
〃	〃	伊 藤 暢	GM-CSF レセプターの活性化とシグナル伝達機構
〃	〃	岩 原 淳 二	染色体セントロメア結合タンパク質 CENP-B および Abp1 の DNA 認識機構に関する構造生物学的研究
〃	〃	大 城 朝 一	ショウジョウバエ気管系発生過程における FGF 受容体、breathless の転写制御機構の解析
〃	〃	大 杉 美 穂	生殖細胞特異的に発現するチロシンホスファターゼ Typ の解析
〃	〃	千 田 大	赤血球分化シグナルの解析
〃	〃	手 塚 徹	Src 型チロシンキナーゼの機能解析
〃	〃	中 野 賢太郎	分裂酵母の低分子量 GTP 結合タンパク質 Rho の働き
〃	〃	林 崎 誠 二	C.elegans の Ras-GTPase 活性化因子をコードする gap-2 遺伝子の解析
〃	〃	藤 田 雅 丈	分裂酵母 Schizosaccharomyces pombe のプロテインキナーゼをコードする sck2 遺伝子の機能解析
〃	〃	宝 来 玲 子	遺伝子欠損マウスを用いたインターロイキン-1 の生理機能解析
〃	〃	松 本 義 久	DNA 依存性プロテインキナーゼの性質と放射線応答における機能
〃	〃	三 木 裕 明	N-WASP によるフィロポディアの形成
〃	〃	村 上 政 男	V-src でトランスフォームした細胞における内在性 AP-1 の活性化機構の解析
〃	〃	矢 吹 孝	無細胞タンパク質合成系のタンパク質機能構造解析への応用
〃	生物科学	谷 知 己	ウニ精子鞭毛における微小管滑り運動および鞭毛運動の反応速度論的研究
〃	〃	小 林 史 郎	送粉者に適応したホタルブクロの花形態に関する進化生態学的研究
〃	〃	早 川 敏 之	ヒトとアメリカカメレオン Brain-1 の N 末領域の配列および機能の相違
〃	〃	今 泉 温 子	ミヤコグサ Lotus japonicus 共生システムにおける根粒形成変異体の単離と解析
〃	〃	飯 塚 晶 子	ラット生殖腺におけるゴナドトロピン受容体の発現とその調節機構
〃	〃	上 田 貴 志	低分子量 GTPase Ara4 及びその相互作用因子の解析
〃	〃	宇都宮 詠 子	ピレイノドを欠く単細胞緑藻 Chloromonas の CO ₂ 濃縮機構に関する進化生物学的研究
〃	〃	加々美 充 洋	出芽酵母の細胞極性維持に関与する細胞骨格系関連遺伝子群の解析

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	生物科学	工 藤 真理子	神経細胞接着分子へのポリシアル酸の結合についての研究
〃	〃	熊 谷 史	植物細胞における微小管構築機構の解析
〃	〃	佐々木 成 江	真正粘菌(Physarum polycephalum)の高次ミトコンドリア核内における染色体機能発現制御の解析
〃	〃	高 橋 亮	文化伝達の数理
〃	〃	高 橋 秀 典	原始紅藻シアニジウム類を用いた細胞質分裂の機構の分子細胞生物学的研究
〃	〃	佐 甲 典 子	高等植物の細胞質遺伝様式を決定するオルガネラDNA制御機構に関する分子細胞学的研究
〃	〃	日 原 由香子	シアノバクテリアの強光順化に関わる遺伝子の単離とその生理学的解析
〃	〃	松 永 幸 大	性染色体をもつ雌雄異株植物 <i>Silene latifolia</i> を用いた生殖器官分化機構の分子細胞遺伝学的解析
〃	〃	松 本 英 子	シスチンアミノペプチターゼの生理作用に関する研究
〃	〃	向 井 貴 彦	チヌブ属魚類(スズキ目ハゼ科)の同胞種群における多所的・多重的雑種形成と生殖隔離の維持機構に関する研究
〃	〃	八代田 英 樹	出芽酵母の Rsp 5 ユビキチンリガーゼとその関連遺伝子の研究
〃	〃	和 田 浩 則	メダカの性染色体の解析
〃	地 質 学	岩 田 尚 能	^{40}Ar - ^{39}Ar 法に基づいたデカン火成活動の年代学的研究
〃	〃	大 森 琴 絵	四万十付加体の古温度構造とその発達史
〃	〃	山 崎 大 輔	MgSiO_3 ペロプスカイトと下部マントルのレオロジー
〃	〃	芳 野 極	北西ヒマラヤ、コヒスタン島弧の岩石学・構造地質学と下部地殻の進化
〃	〃	トラン ニョク ナム	ヴィトナム・ザイヌイコンヴォイにおける紅河剪断帯：変形運動と温度-圧力-時間履歴とそのテクトニックな意義
〃	鉱 物 学	荒 井 朋 子	月と小惑星 4 ベスタからの太陽系最初期の玄武岩の鉱物学的研究
〃	〃	齋 藤 晃 宏	ペロプスカイト型希土類オルソアルミネート及びオルソガレート構造相転移に関する結晶学的研究
〃	〃	星 岳 志	K-Ca 長石の微細組織についての高分解能透過型分析電子顕微鏡による研究

平成10年 4 月15日付学位授与者 (7 名)

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	物 理 学	猪 野 和 住	分数量子ホール系における非アーベル的統計性と複数端状態
〃	地球惑星物 理 学	松 井 洋	外部磁気圏における低エネルギープラズマ密度の増大に関する研究
〃	地 質 学	木 村 浩 人	イラン北部エルブールズ山脈、上部原生界～下部カンブリア系の化学層序と生物擾乱
論文博士	天 文 学	八 木 雅 文	近傍銀河団の形態別光度関数
〃	化 学	中 林 孝 和	ピコ秒時間分解アンチストークスラマン分光法による溶液中の振動分布緩和過程の研究
〃	生物科学	大 川 浩 作	精子 26S プロテアソームの精製と特徴づけ、および精子運動調節に関する役割
〃	鉱 物 学	三河内 岳	火星起源隕石の鉱物学的研究：火星での結晶化・変成・衝撃履歴